

平成26年度相模原市協働事業提案制度事業  
**第3回藤野の歴史的建造物めぐり**  
 (第11回ふじの里山古民家ツアー)

「藤野の歴史的建造物めぐり事業」は、本市の協働事業提案制度で採択された事業で、これまでNPO法人「ふじの里山くらぶ」と「横浜国立大学大野敏准教授」が取り組んできた藤野地区の古民家等の調査、資料作成、イベントの開催などを行ってきたものを、平成24年度からは協働事業として相模原市街づくり支援課が加わったものです。

この事業は、それぞれの役割を分担し、地域の宝である歴史的建造物を保全・活用することで、地域振興に繋げようとするものです。

企画・実施 / 協力

企画・実施: 藤野の歴史的建造物めぐり協議会 (NPO 法人ふじの里山くらぶ、横浜国立大学大野敏准教授)、相模原市街づくり支援課

協力: 藤野観光協会、藤野商工会

講師

横浜国立大学大野敏准教授、江口亨准教授、大学院生の皆さん

日時

平成26年9月28日(日) 8:40~16:30

参加者 / 参加費

参加者: 53名  
 参加費: 4,000円  
 (バス、昼食、抹茶、資料、保険代等を含む)

行程

藤野中央公民館(開会) (昼食の仕込み) 石井家 遠藤家 春日神社 (昼食) 八幡神社 石橋尾神社 岩神社 藤野中央公民館(全体の集い)



開会

「ふじの里山くらぶ」の永井理事長からのあいさつの後、講師の横浜国立大学大野先生、江口先生、大学院生の紹介が行われた。



(昼食の仕込み)

ツアーに先立ち、昼食の「かぐや姫ご飯」の仕込みを参加者に体験していただいた。

竹筒に米、<sup>たけのこ</sup>筍、人参、椎茸等の具とだし汁を入れ、栓をした。参加者がツアーで巡っている間に火にかけ、昼食時間に炊き上がるようにした。



石井家

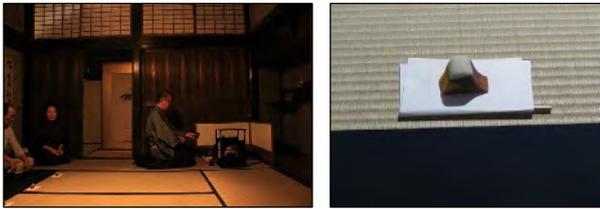
国指定重要文化財  
 建築年代: 宝永四年(1707)  
 構造形式: 桁行23.3m、梁行11.2m、一部2階、切妻造、四面庇付、鉄板葺き(元茅葺)



大野先生、大学院生より建物の特徴等の説明が行われた。ご当主の奥様より、建物の歴史に関する説明をいただき、見学を行った。

- ・ 富士山の宝永噴火の灰が残されているとの言い伝えがあり、火鉢の灰を分析したところ宝永噴火の際の火山灰であることが判明した。
- ・ 玄関戸は以前は大戸であった。玄関に至る飛び石は当時のままであり、当時の潜戸の位置に向かって設置されている。
- ・ 武家や貴族の住まいのような繊細優美な住宅の面構え(細い柱や高い天井のオクノマ等)と、庶民の逞しさや力強さ(太い柱や梁のチャノマ等)の2つを感じられるのが、上層民家(石井家)の見どころである。また石井家は改装を経ても、それが保たれているのが素晴らしい。

- ・ 主屋に隣接してあった「牛小屋」(建築年代：19世紀後半)は今年の大雪で一部が損傷。春に大学院生による調査が行われたが、現在は撤去されている。
- ・ 「離れ」は緑区町屋から移築したものである。



見学の後、抹茶と茶菓子がふるまわれた。茶菓子は宝永噴火の火山灰にちなみ、富士山をモチーフとしている。

### 遠藤家

国登録有形文化財

建築年代：18世紀後半

構造形式：桁行14.5m、梁行9.1m、切妻造、鉄板葺(元入母屋造・茅葺)



大野先生、大学院生より建物の特徴等の説明が行われた。また、ご当主より、建物の歴史に関する説明をいただき、建物内・外の見学を行った。

- ・ 遠藤家は代々農家で、養蚕で生計を立てていた。昭和49年まで養蚕を行っていた。蚕室も持っていた。昭和44年から昨年まで、お茶づくりをしていた。椎茸の栽培も行っていた。
- ・ 現在は野菜を作っており、藤野駅前で直売を行ったりしている。
- ・ 屋根を現在の形状にしたのは、石井家よりも後である。その際、軒を出し桁造りにしている。

### 春日神社

建築年代：文政九年(1826)

構造形式：一間社流造、銅板葺、正面一間(1.83m)



大野先生、大学院生より建物の特徴等の説明が

行われ、建物内・外の見学を行った。

- ・ 寺院建築の影響を受けていることが、斗栱、海老虹梁などの彫刻からよくわかる。これは江戸時代、日光東照宮以降盛んになる傾向である。
- ・ 藤野では集落ごとに立派な社殿を造っていることから、養蚕や交通拠点として栄えていたことがわかる。

### (昼食)



昼食には「かぐや姫ご飯」をいただいた。

地元産食材を活かした特産創作料理として考案され、テレビの料理番組で最優秀賞に輝くなど、好評を博していたもの。創案者が亡くなるなど、忘れかけられていたが、地元の皆さんの活動により復活した。

竹を割ると、食欲をそそる匂いが周囲に漂った。「すいとん」と合わせておいしくいただいた。

### 八幡神社

(神楽殿)

建築年代：19世紀後半

構造形式：正面11m・側面6m、寄棟造、鉄板葺き(もと茅葺)



大野先生、大学院生より建物の特徴等の説明が行われ、建物内・外の見学を行った。

- ・ 農村歌舞伎の舞台として使われていた。
- ・ 中2階があった痕跡があり、楽屋として使われていたと思われる。
- ・ 平成の初期には茅葺きの上にトタンをのせた形であったが、茅葺きは維持が大変なこともあり、現在は鉄板葺きとなっている。
- ・ 地元出身の参加者から、かつては地域の夏祭りがこの神社にて催され境内に露店も並び大層にぎわっていたとの説明があった。
- ・ 神様がいらっしゃる祭礼空間は、八幡神社のように徐々

にあがっていくことで神聖性を表現しているものが多い。

### 石楯尾神社

(本殿)

建築年代：16世紀末頃

構造形式：正面一間(背面二間)・側面二間、正面  
向拝付、切妻造・銅板葺、正面間口 2.9m

(神楽殿)

建築年代：弘化二年(1845)

構造形式：正面 36 尺・側面 27 尺 寄棟造・瓦棒  
金属板葺(もと茅葺)



大野先生、大学院生より建物の特徴等の説明が行われた。総代の田村氏より建物の歴史に関わる説明をいただき、見学を行った。

- ・ 本殿は室町時代のものでしょうか、旧津久井郡においても最古のもの。
- ・ 神楽殿は梁を丸太のままとし武骨な造りとなっている。
- ・ 神楽殿の内部は、中二階と出語りに吊り束を用いることで、支柱のない広々とした空間となっている。
- ・ 仮設舞台の現在の床はユニット式になっていて、早く組むことができる。

### 岩神社

建築年代：19世紀初期の文化年間(1804～18頃)

構造形式：二間社、入母屋造、銅板葺



大野先生、大学院生より建物の特徴等の説明が行われた。総代の杉本氏より、建物の歴史に関わる説明をいただき、見学を行った。

- ・ 今でもお籠もりで利用され、子供たちが境内でバーベキューを行っている。
- ・ 通常の神社建築の間口は奇数であるのに対し、

扉が2つついている二間社は大変珍しい形式。

- ・ 木の純粋さを強調した白木を使用。
- ・ 装飾がアヴァンギャルドで、色はついていないが華やか。
- ・ 地区で創った神社でありながら煌びやかな紋様があることで、盛大に自分たちの文化を誇っていたのだろうと推測される。
- ・ 化粧垂木を3段に構えた三軒繁垂木も大変珍しい

### 全体の集い

見学が終了した後、藤野中央公民館で全体の集いが行われた。江口先生と大学院生から藤野地域における農地や学校の地域資源の再評価についての提案の発表がされ、続いて参加者から感想、意見が述べられた。



- ・ 地元にもこうした古い神社、古民家が残っていることに感銘を受けた。
- ・ 抹茶、かぐや姫ご飯が美味しかった。かぐや姫ご飯の仕込みの体験ができたことも良かった。
- ・ 古い建物に住むことはとても苦勞が多いが、住む人の努力により残されていることに驚いた。
- ・ 学生の提案が形になれば、地域が面白くなるだろう。

### 事務局から

今回は協働事業としては3回目のツアーとなった。以前のツアーで巡っていた、石井家等の藤野の代表的な建造物を対象とし、原点回帰ともいえる内容となった。

また、「かぐや姫ご飯」を食べていただくことで、地域の文化に触れる機会を提供することができ、準備にご尽力された地元の方々のあたたかいおもてなしの心を感じていただくことができた。

さらに、総代さんから、見学に来てくれたことに喜びを感じたとのご意見をいただき、貴重な歴史的建造物を護っていることに誇りをもってもらったことに、つながったものと思われる。